

1 学力向上推進計画

1 学力向上推進の目標

「社会に開かれた教育課程」の実現による、豊かな創造性を備えた持続可能な社会の担い手となる生徒の育成

(1) 総括目標

生徒一人一人に「生きる力」の基礎となる「新しい時代を作るために必要とされる資質・能力」として「自律している生徒」「タイム・マネジメントを意識している生徒」「自己決定できる生徒」の育成を図る。

(2) 本校の推進目標

□ 全国学力・学習状況調査

- ・ 質問紙調査の自己肯定感に関する項目において、肯定的な回答の割合が全国を上回る。
- ・ 学力調査（国・理・数）の各教科の平均正答率において、全国との差－5ポイント以内または、全国を上回る。

□ 令和4年度沖縄県諸学力調査・沖縄県児童生徒質問紙調査

- ・ 児童生徒質問紙調査の自己肯定感に関する項目において、肯定的な回答の割合が、同生徒の直近の調査結果より改善する。
- ・ 諸学力調査において、正答率30%未満の生徒の割合と無答率を同生徒の直近の調査結果より改善する。
- ・ 各実施教科の平均正答率において、県との差－5ポイント以内、または、県を上回る。

2 基本方針

- (1) 沖縄県学力向上主要施策「学力向上推進5かプラン・プロジェクトⅡ～学びの質を高める授業改善・学校改善～」、南風原町学力向上推進要項「かすりっ子「学ぶ」プロジェクト」を本学力向上推進計画に位置づけ、全職員で共通理解を図り、「確かな学力の向上」「豊かな心の育成」「健やかな体の育成」に係る事項について、「自律している生徒」「タイム・マネジメントを意識できる生徒」「自己決定できる生徒」の育成に向けた共通実践を行う。
- (2) 沖縄県学力向上主要施策「学力向上推進5かプラン・プロジェクトⅡ」における令和4～5年「充実期」における取組である2つの重点事項と5つの取組の充実を図る。
- (3) 学校・家庭・地域との連携を強化し、「自律している生徒」「タイム・マネジメントを意識できる生徒」「自己決定できる生徒」の育成に向けた取り組みの推進を図る。
- (4) 「学びの質を高める授業改善・学校改善サイクル」^(※1)を確立し、カリキュラム・マネジメントの充実に努める。

(※1) ①学校教育目標(目指す子供の姿) → ②学力向上推進学校デザインシート(校内研テーマ・研究体制構築)
→ ③学校改善ルーブリック(授業改善・学校改善の見直し) → ④学力向上推進フォーカスシート(共通理解・共通実践)
→ ⑤学校評価(診断的評価)アセスメント] → ① → ② … のサイクル

3 『南星中5つの取組』(令和4-5年度「充実期」における2つの重点事項)

□ 重点事項1 『自立した学習者の育成』

- ・取組1：『生徒が「問い」を持ち、主体的に学ぶ授業の推進』

「問い」が生まれる授業 Support Guide」「授業における基本事項」「かすりっ子学習のきまり」の内容を指針に、本校における全教科で取り組む共通実践（学習の基盤となる言語能力の育成）^(※2)を踏まえた日々の授業改善への取組により「確かな学力の向上」の推進を図る。

- ・取組2：『生徒の自学自習力の育成』

キャリア教育の視点を踏まえた「キャリア手帳（仮称）」の取組により、生徒の「ふり返る力」「みとおす力」などを高めることで、自らの学習を調整（自己調整）しようとする態度を育む。

- ・取組3：『ICTの活用等による個別最適な学びの推進』

学力向上 Web システムを活用し、直近の調査結果を分析し、生徒の実態にあった指導の個別化と学習の個性化の充実を図る。

□ 重点事項2 『中学校期の学力課題の改善』

- ・取組1：『授業研究に全職員で取り組む組織的授業改善』

校内研修テーマ『「主体的・対話的で深い学び」の実現を図る学習活動を取り入れた授業づくり～学習指導要領における指導と評価の一体化を通して～』を踏まえた1人1公開授業2授業観察への取組により、各教科で評価規準・評価方法を検証し、指導と評価の一体化を図る授業づくりの工夫改善をおこなう。

- ・取組2：『生徒の成長を捉え、次の学びに生かすテスト改善』

指導と評価の一体化を図る授業づくりを踏まえた教科会でのテスト問題検討の取組により、生徒の次の学びに生かすテストの工夫改善をおこなう。

(※2) 全教科で取り組む共通実践(学習の基盤となる言語能力の育成)

全教科で取り組む共通実践について

□ 目指す生徒の姿

- 文章や問題文等を読んで、何を問われているのか自分の言葉で説明できる生徒
- 主語を意識して、指示語が何を指しているのか説明できる生徒
- 授業のまとめを自分の言葉で記述できる生徒

□ 全教科共通の学校全体としての具体的取組

- ✓ 問題発見の工夫：「生徒の疑問は何か」「何を解決したいのか」等、何が「問い」なのかを確認する。
- ✓ 発問の工夫：主語は何か、「あれ」「これ」が何を指しているのかを問い返す。
- ✓ まとめの工夫：授業のまとめを自分の言葉で記述できるように、段階的な指導を行う。
(例 穴埋め → 短文 → 文章 など、段階的に記述内容を充実させる等)

	課題	改善の視点	リーディングスキルの結果分析
国語	伝えたい事柄を、相手へ効果的に伝える	<ul style="list-style-type: none"> ・「何」を質問すればよいかの把握すること ・質問されている意図を把握すること ・どの立場で伝えればよいかの認識すること 	本町の傾向として、読解力に必要な基礎的な能力ある程度身につけているものの、得られた知識を論理的に判断する力や、定義を理解し判断する力が弱いと考えられる。
数学	与えられた条件の下で、いつでも成り立つ図形の性質を見いだして表現する。	<ul style="list-style-type: none"> ・前提となっている条件を把握すること ・条件に基づいて新たな事柄を見いだすこと ・見いだした事柄を文章で表現すること 	

4 学力向上推進の視点と方策

学力向上推進の3つの視点と5つの方策による学力向上推進に取り組みにより、「自律している生徒」「タイム・マネジメントを意識できる生徒」「自己決定できる生徒」の育成を図る。

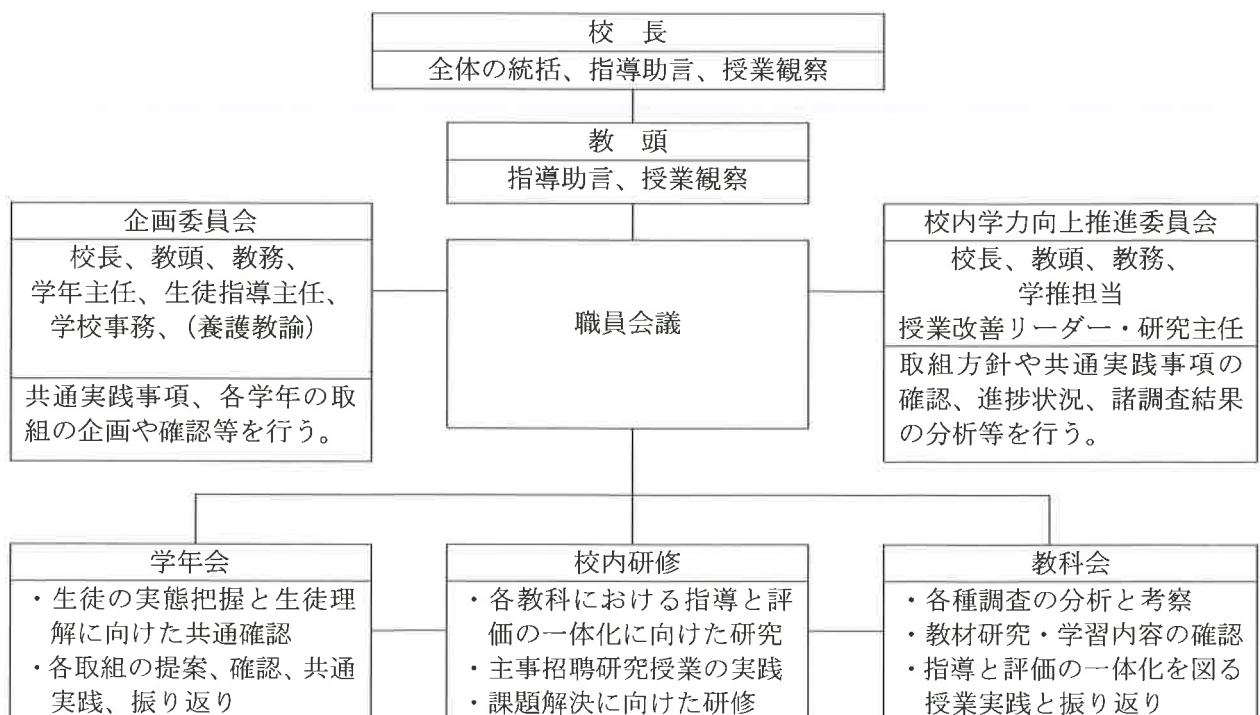
(1) 推進の3つの視点

視点	本校の課題
1. 自己肯定感の高まり	「学級は、自分のよさを認め、自分の力が発揮できる雰囲気になっている」に対して、そう思う生徒が34.7%である。(前年度52.0%)
2. 学び・育ちの実感	「家庭学習を、毎日計画的に取り組むことができる」に対して、そう思う生徒が49.7%である。(前年度69.5%)
3. 組織的な関わり	「教師一人一人が、学校経営に積極的に参画している」に対して、そう思う教職員が31.7%である。(前年度38.0%)

(2) 推進の5つの方策

方策	内容
1. 日常化する 【質的授業改善】	学習の基盤となる言語能力の育成、生徒指導の4つのポイントを生かした授業づくり、QUテスト結果を活用した授業の基盤となる支持的風土づくりを通して、生徒の自己肯定感を高める。
2. そろえる 【組織的共通実践】	キャリア教育の視点を踏まえた「キャリア手帳(仮称)」の取組により、生徒の「ふり返る力」「みとおす力」などを高め、自らの学習を調整(自己調整)しようとする態度を育む。
3. 支える 【発達の支援】	学校経営の重点「自律している生徒」「タイム・マネジメントを意識している生徒」「自己決定できる生徒」の育成の視点に基づいた、学年経営、学級経営、教科経営の充実を図る。
4. 見通す 【学校組織マネジメント】	知・徳・体の目標の連鎖(学校教育目標→学年目標→学級目標・部活目標→個人目標)
5. つなぐ 【学校連携・地域連携】	各種たより、じんじんメール、ホームページによる情報の発信、地域情報の受信に努める。

5 推進体制



6 授業づくり共通実践事項（「南風原町かすりっ子学習のきまり」「授業における基本事項」に準ずる）

- (1) 「学習規律」
 - ① 2分前着席、1分前黙想の徹底
 - ② 学習態度（話す、聞く等）の確立
- (2) 「タイム・マネジメント」
 - ① 一単位時間（50分）を意識した授業計画
 - ② チャイムで始まりチャイムで終わる授業の徹底
- (3) 「めあて・まとめ、振り返り」
 - ① 身につけさせたい力を踏まえた「めあて」の設定提示
 - ② 「めあて」と正対した「まとめ」「振り返り」
- (4) 思考力・判断力・表現力等
 - ① 生徒が考えをまとめたり表現したりする時間の確保（南風原町「揃える実践」）
 - ② 学習のねらいの達成に向けた言語活動の設定
 - ③ 思考の見える化（ノート、板書、ホワイトボード、電子黒板、タブレット等の活用）
 - ④ 話し合い活動のねらいの明確化（相談・解決・比較等）
- (5) 学習を支える力
 - ① 全教科で取り組む共通実践（学習の基盤となる言語能力の育成）
 - ② 生徒指導の4つのポイントを生かした授業づくり
 - ③ 授業の基盤となる支持的風土づくり（ハイパーQ-Uテスト結果の活用含む）

7 具体的取り組み

	具体的取り組み	評価	
確かな学力の向上	(1) 基礎的・基本的な知識・技能の習得	<ul style="list-style-type: none"> ○各学期、各単元当初における、既習事項定着の確認 <ul style="list-style-type: none"> ・レディネステスト等による生徒の実態把握 ○生きて働く「知識・技能」の習得を図る授業実践 ○授業改善リーダー（加配教員）を活用した補習指導等の実施による習熟の程度に応じた指導の充実 <ul style="list-style-type: none"> ・年間通した補習指導の計画立案・調整・運営 ・放課後学習会の計画立案・調整・運営 ・定期テスト前学習会の計画立案・調整・運営 ■学力向上強化月間「モーニングテスト」の実施（1,2月） <ul style="list-style-type: none"> ・曜日で家庭学習の教科を指定し、翌日の朝にテストを実施する学年体制での取組 	
	(2) 思考力・判断力・表現力の育成	<ul style="list-style-type: none"> ○生徒が考えをまとめたり表現したりする時間の確保 ○学習のねらいの明確化とねらいの達成に向けた言語活動（話し合い活動等）を取り入れた授業実践 ○思考の見える化（ノート、板書、ホワイトボード、電子黒板、タブレット等の活用）の指導の工夫 ●「主体的・対話的で深い学び」の実現を図る学習活動を取り入れた授業実践（校内研修テーマ） 	

	(3) 学習を支える力の育成	<p>○「<u>全教科で取り組む共通実践（学習の基盤となる言語能力の育成）</u>」の実践</p> <p>○「<u>キャリア手帳（仮）</u>」による自己調整する態度の育成</p> <p>○授業と連動した家庭学習の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家庭学習ノートを活用した取組（1人1冊配布） ・授業と連動した宿題・自学自習の実施 ・長期休業期間中の宿題・自学自習の実施 <p>○学習環境の充実（言語環境、整理整頓）</p> <p>○学習規律の徹底（南風原町「揃える実践」）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2分前着席（前時の振り返り）1分前黙想 ・学習態度（話す・聞く等） <p>■学力向上強化月間「学習規律の徹底」の取組（4，9月）</p>	
	(4) 授業力の向上	<p>○「学力向上推進5か年プラン・プロジェクトII」『「問い」が生まれる授業 Support Guide』を踏まえ、「<u>授業における基本事項</u>」の活用による授業改善の視点を明確化</p> <p>○校内研修（指導と評価の一体化）による授業改善</p> <p>○生徒の次の学びに生かすテストの工夫改善</p> <p>○学力向上 Web システムの活用（調査結果の分析等）</p> <p>○月行事（週時程）に位置付けた教科会の充実</p> <p>○校長、教頭による授業観察。</p> <p>○<u>1人1公開授業・2授業観察の実施</u></p>	
	(5) 読書指導の充実	<p>○「朝の読書」「PTAによる読み聞かせ」「読書旬間」などによる読書活動の工夫</p> <p>○学年別使用日の設定などによる学校図書館の効果的な活用</p>	
	(6) ICT機器の効果的な活用	<p>○電子黒板等 ICT の効果的な活用の推進</p> <p>○教育活動全体を通じた情報モラルの指導の充実</p> <p>○<u>タブレット PC の効果的な活用の推進</u></p>	
豊かな心の育成	(1) 道徳教育の充実	<p>○道徳教育の要として、22の内容項目を効果的に取り扱う道徳科の授業づくりの推進</p> <p>○全学級による道徳の公開授業の実施</p> <p>○<u>ローテーション道徳科授業の実施</u></p>	
	(2) 人権教育の充実	<p>○人権の日の取り組み</p> <ul style="list-style-type: none"> ・毎月第1金曜日「人権の日」の設定 ・人権について考える放送読書の実施 <p>○全学級「いじめ防止特設授業」による生徒会朝会での「いじめ撲滅」宣言の実施</p> <p>○毎月の学校生活アンケートの実施（生徒指導委員会）</p>	

	(3) 特別活動の充実	<p>○生徒会による「ベストサザンスター賞」の取組</p> <p>○ボランティア委員会主催の活動への学級の取組</p> <p>○「人間関係形成」「社会参画」「自己実現」の視点による、 ねらいを明確にした各活動の実践</p> <p>○学級活動による話し合い活動の実施</p>	
	(4) 自己の将来や 生き方を考える 指導の充実	<p>○キャリア教育全体計画及びキャリア教育の視点に基づいた 各活動の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・役割意識を持たせた生徒会活動、係・当番活動の工夫 ・職場体験学習など、体験的活動の工夫 <p>○キャリア・パスポートの各面談での活用</p> <p>○「キャリア手帳（仮称）」を活用による、自らの学習を調整 （自己調整）しようとする態度の育成</p>	
健やかな体の育成	(1) 生活との関連を 図った健康づくり の充実	<p>○保健・食に関する指導の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・健康観察、健康診断、生活実態調査などの結果に基づき、 給食時間や学級活動、教科等において、望ましい食習慣 の形成に係る指導の工夫 <p>○安全に関する指導</p> <ul style="list-style-type: none"> ・安全教育計画に基づき、点検活動、防犯や応急処置等の 訓練の実施 ・生徒が安全に行動できる能力の向上を図る指導の工夫 	
	(2) 日常的な運動、 部活動の充実	<p>○体力の向上を図る指導の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・体力テスト、泳力調査の結果を踏まえ、個人の目標を高 める等の指導の工夫 <p>○部活動を活性化させる取り組みの推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地区陸上・地区駅伝等への部活動生の参加 ・各部活動の一（いち）活動の取組 	
基本的な生活習慣の確立	(1) 生活リズムの 確立	<p>○健康的な生活習慣づくりの指導の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生活実態調査等をもとに、生活リズムの確立を図る取組 の充実 <p>○タイム・マネジメントを意識させる取組の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「キャリア手帳（仮）」を活用による学校生活を「見通す」 「ふり返る」ことの習慣化 <p>■「自己調整習慣化月間」の取組（5月）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・よりよい生活リズムの確立を図る工夫 	
	(2) 規範意識・ マナーの育成	<p>○あいさつ、きまりを守る、命を大切にす指導の充実</p> <p>○自他の物を大切にす指導の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・道具の準備・後片づけ、公共の物を大切にす。 <p>○外部講師の授業に向けたマナー指導（1学年）</p> <p>○職場体験学習におけるマナーの指導（2学年）</p> <p>○面接指導におけるマナーの指導（3年生）</p>	

8 学力向上推進年間計画

月	実践項目 ◆:職員会議 ■:強化月間 ◎:公開授業等 ◇:テスト等 ○:各取組	担 当
R4 3 下 旬	◆「春休みの宿題」の取組の共通確認 【職員会議】 《春休み》 ○「春休みの宿題」の取組の実践（既習事項の定着の強化） →「春休みの宿題」の課題配布（新入生への課題配布含む）	・学推担当 ・各教科
4	◆「学力向上推進計画」の共通確認 【職員会議】 《1学期》 ○年度当初の生徒のレディネスの確認 ○各教科における本年度の重点事項等の検討 【教科会】 ○「キャリア手帳（仮）・家庭学習の取組開始（年間の取組） ○ 放課後学習会の開始（毎週水曜日放課後）（年間の取組） ■「学習規律強化月間（学習規律の徹底）」の取組 →「南風原町かすりっ子学習のきまり」の実践 ◎ 日曜授業参観 [4月17日（日）] ◇ 全国学力・学習状況調査(3年国・数・理) 実施 [4月19日（火）] → 採点・結果入力 → 結果分析（学力向上 web システム活用） ○「学習規律強化月間」取組後のアンケート分析 → アンケート実施（タブレット利用）	・学推担当 ・各教科 ・各教科 ・全職員 ・授業改善リーダー ・全職員 ・3教科 ・全職員 ・3教科主任 ・学推担当
5	○1人1公開授業2授業観察開始 [5月～12月までに実施] ◎全学級において道徳の公開授業の実施 [町学校公開日] ■「自己調整習慣化月間」の取組 →「キャリア手帳（仮）」「家庭学習」の取組状況も確認・助言 ○「自己調整習慣化月間」取組後のアンケート分析 → アンケート実施（タブレット利用）	・教務、学推担当 ・全職員 ・学推担当
6	◇ 学びのたしかめ「県学力定着状況調査」（1年国数、2年国数英、3年英） → 採点・結果入力 → 結果分析（学力向上 web システム活用） ○ 1学期末テスト前学習会の実施 ◇ 1学期末テストの実施 [5教科・保体] ◎ 主事招聘研究授業の実施 → 5教科（国、社、数、理、英）、道徳授業 ◇ リーディングスキルテスト（1年、2年） ◇ Hyper Q-U アンケートの実施（全学年）	・3教科 ・3教科 ・3教科主任 ・授業改善リーダー ・各教科 ・研究主任 ・国語科 ・教育相談
7	◇令和4年度第1回沖縄県児童生徒質問紙実施 ◇令和4年度第1回南星中学校「学校評価」アンケートの実施 ◆夏休み学習会（補習指導・個に応じた指導含む）の提案 《夏休み》 ○ 1学期取組に関するアンケート分析と対応策の検討【学年会・教科会】 → 各種調査、アンケート結果の集計・分析 ○ 夏休み学習会（補習指導・個に応じた指導含む）の実施	・教頭 ・教頭 ・授業改善リーダー ・学年主任 ・教科主任 ・授業改善リーダー
8	○ 夏休み校内研修の実施 ◇ 全国学力・学習状況調査の結果公表 → 全国、県、本校の結果比較・結果分析 → 結果分析を受けての取組の検討 ◆2学期以降の取組に関する提案・共通確認【職員会議・教科会】 → 1学期取組のアンケート分析結果の対応策 ◆学力向上推進強化月間の取組の共通確認 【職員会議】	・研究主任 ・学推担当 ・3教科主任 ・各主任 ・学推担当

	<p>《2学期》</p> <p>◇実力テスト週間（全学年）〔9月1週目までに実施〕</p> <p>■「学習規律強化月間」（学習“やる気”アップ月間）の取組の実施</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・各教科 ・全職員
9	<p>○「学習規律強化月間」（学習“やる気”アップ月間）取組後のアンケート分析 → アンケート実施（タブレット利用）</p> <p>◇2学期中間テストの実施〔技家・音・美〕</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学推担当 ・各教科主任
10	<p>○2学期中間テスト前学習会の実施</p> <p>◇2学期中間テストの実施〔5教科〕</p> <p>◇3年学力調査（入試模擬テスト）の実施</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・授業改善リーダー ・各教科 ・5教科主任
11	<p>○2学期末テスト前学習会の実施</p> <p>◇2学期末テストの実施〔5教科・保体〕</p> <p>◇学びのたしかめ「県学力定着状況調査」（全学年：国・数・英） → 採点・結果入力 → 結果分析（学力向上 web システム活用）</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・授業改善リーダー ・各教科 ・3教科主任
12	<p>◆ 学びのたしかめ「県学力定着状況調査」結果を受けた取組み【教科会】</p> <p>◎全学級公開授業の実施【町学校公開日】</p> <p>◇2学期末テストの実施〔(3年) 技家・音・美〕</p> <p>◇令和4年度第2回沖縄県児童生徒質問紙実施</p> <p>◇令和4年度第2回南星中学校「学校評価」アンケートの実施</p> <p>《冬休み》</p> <p>○2学期取組に関するアンケート分析と対応策の検討【学年会・教科会】 → 各種調査、アンケート結果の集計・分析</p> <p>○今年度の取組の検証及び次年度計画【次年度検討委員会】</p> <p>◆3学期以降の取組に関する提案・共通確認【職員会議・教科会】 → 2学期取組のアンケート分析結果の対応策 → 学力向上強化月間の取組の共通確認</p>	<ul style="list-style-type: none"> 3教科主任 ・各教科 ・教頭 ・教頭 ・学年主任 ・教科主任 ・学推担当 ・各主任 ・学推担当
R5	<p>《3学期》</p> <p>1 ■ 学力向上強化月間「学習ステップアップ月間」の取組 → 「モーニングテスト」の実施</p> <p>◇英語スピーキングテスト</p> <p>○学力向上推進実践報告書作成</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・全職員 ・学推担当 ・英語科 ・学推担当
2	<p>■ 学力向上強化月間「学習ステップアップ月間」の取組 → 「モーニングテスト」の実施</p> <p>◆次年度学力向上推進計画の提案【職員会議（次年度検討委員会）】</p> <p>○3学期末テスト前学習会の実施</p> <p>◇3学期末テストの実施〔(2年) 全教科〕</p> <p>◇沖縄県学力到達度調査(1, 2年：国・数・英) → 採点・結果入力 → 結果分析（学力向上 web システム活用）</p> <p>◇3年模擬テスト〔(3年) 5教科〕</p> <p>○県到達度調査の結果を受けた取組【教科会】</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・全職員 ・学推担当 ・学推担当 ・授業改善リーダー ・各教科 ・3教科 ・全職員 ・3教科主任 ・各教科 ・3教科主任
3	<p>○学力向上強化月間「学習ステップアップ月間」取組後のアンケート分析 → アンケート実施（タブレット利用）</p> <p>◇高校入試</p> <p>○当該学年の学習内容の復習</p> <p>◆「春休みの宿題」の取組の共通確認 【職員会議】</p> <p>《春休み》</p> <p>○「春休みの宿題」の取組の実践（既習事項の定着の強化） → 「春休みの宿題」の課題配布（新入生への課題配布含む）</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学推担当 ・3年職員 ・各教科 ・学推担当 ・各教科

【資料1】

令和4年度 家庭学習実施計画

1 ねらい

- (1) 学校全体の取り組みとして推進し、めあて、ふり返りがある家庭学習の取組とする。
- (2) 家庭学習の取組を通して、自ら学習（自学自習）する態度を育てる。
- (3) 予習や復習を通して、自身の学力を伸ばす。

2 方針

- (1) 学級、教科等で家庭学習の意義を説明し、生徒が自主的に取り組む環境を整える。
- (2) 「生徒が自分で学習内容を決めて、計画を立てて学習し、自分で評価する」家庭学習とすることを基本とする。
- (3) 「キャリア手帳」を併用して、家庭学習の習慣化を図る。
- (4) 各教科が授業と連動した宿題を与える場合は、各教科が連携して宿題の量や提出期日を調整し、各教科で点検する。
- (5) 家庭学習ノートの提出を希望する生徒に対しては、各学年で対応する。
- (6) 担任、副担任、教科担当が連携し、継続的に家庭学習に取り組む態度を育成する。

3 実施方法

- (1) 沖縄県「自学自習ガイド」を活用して、各学期の始めに学級及び各教科で家庭学習の意義を説明する。
- (2) 1時間以上の自主的な家庭学習に取り組むよう奨励する。
- (3) 「キャリア手帳（仮称）」に、家庭学習の計画やふり返り等を記録する。
- (4) 家庭学習ノート（市販ノート）を使用する場合
 - ・家庭学習ノートを1人1冊配布し、ノートを活用して家庭学習できる環境を整える。
※2冊目からは、各自でノートを購入する。
 - ・家庭学習ノートの提出を希望する生徒に対しては、学年で点検体制を整える。
 - ・家庭学習ノート1冊終了毎に、自己評価（ふり返り）シートを配布する。
 - ・生徒は、家庭学習ノートと記入した自己評価（ふり返り）シートを校長へ提出し、校長から完了証を受け取る。
- (5) 問題集等を使用する場合
 - ・各自で準備した問題集等を活用した家庭学習を進める場合は、答え合わせまで各自で行うよう奨励する。
 - ・各教科で購入している問題集を、自主的に予習・復習のための活用も可とする。
- (6) 授業と連動した宿題を課す場合
 - ・各教科の学習内容は、教科担当が授業と連動した内容を各教室（又は各学年の）のホワイトボードで提示する。（プリント・問題集・教科書のページ指定等）
 - ・点検及び評価は各教科で行い、指導と評価の一体化に努める。

完了証 (冊目)

あなたは、自主的に家庭学習に取り組み、
この家庭学習ノートを見事使い切りました。

あなたの自学自習する態度を証するとともに、
今後の継続した努力と成長を期待します。

令和 年 月 日

南風原町立南星中学校 校長

— 自己評価 (ふりかえり) —

項 目		自 己 評 価			
1	毎日継続して家庭学習に取り組んだ	A	B	C	D
2	自分で学習内容を決定した。	A	B	C	D
3	自分で学習計画を立てた。	A	B	C	D
4	学習の目標を立ててから学習をした。	A	B	C	D
5	家庭学習の内容のふり返しを行った。	A	B	C	D
評 価 基 準	A よくできた C あまりできていない B ある程度できた D できなかった				
【良かった点・課題・今後に向けて等を書こう】					
保護者サイン (印)		担任サイン (印)			
年 組 番	氏 名				

【資料2】

令和4年度 キャリア手帳(仮)の実施計画

1 目的

- (1) 記録することにより自分自身の過ごし方を知り、振り返り力を高めることで自己調整力を育む。
- (2) タイムマネジメントを意識させ、生徒の自主的な計画性を育み、進路の実現に活かす。

2 使用手帳について

- (1) 今年度はふりかえり力向上「フォーサイト手帳」 エントリー版(620円)を使用する。
- (2) 手帳の名称をキャリア手帳(仮)とする。

3 実施方法

- (1) 朝活動の時間8:15~8:30の前半5分間に前日の内容を書かせる。
- (2) 書き終わった生徒はノートを開いたまま、静かに読書に入る。
- (3) 担任は机間巡視をしながら、ノートが書かれているか確認する。
- (4) 帰りの会の前に翌日の時間割や宿題などメモすることなどを書かせる。
(6時間目終了後と帰りの会開始までの10分間)
- (5) 土日は持ち帰って記録し、月曜日の朝に提出する。
- (6) 月曜日中に担任または副担任がチェックし、帰りの会までに返却する。

4 方針

- (1) 先生からの点検、チェックに過度に依存せず、生徒の自主性・主体性を高める仕掛けをする。
- (2) 書き方や目的などをオリエンテーションすることで全校統一した取り組みとし、3か年をかけて継続することで力を付ける取り組みにしていく。
- (3) キャリアパスポートを書く際に手帳を見ることで自身の過ごし方を振り返り、目標に向かって自分が過ごせているかどうか改善していけばよいかを考える材料とできる。
- (4) 学活の時間などを用いて、自身の生活を振り返ったり級友の記録を比べたりすることで、自分を客観的にみる力を付ける。
- (5) 三者面談時に保護者と一緒に振り返ることで、家庭での過ごし方の話をする材料にできる。

5 フォーサイト手帳について

- (1) 見開き1週間で生徒が記入しやすい。(裏面画像①参照)
- (2) 「今週のやること」が一番目に入る左上にあるため、書くことで自然とPDCAサイクルが回せる。
- (3) 『PDCAガイドブック』などの無料サポート冊子で手帳で自己管理をすることの意味付けができる。
- (4) 4月中にDVDを利用し手帳活用方法を生徒に説明するなど、教師向けのサポートがある。

内容例 見開き1週間の実際の生徒の記入例

1	17 Monday	18 Tuesday	19 Wednesday	20 Thursday	21 Friday	22 Saturday	23 Sunday
1	DVO 漢文	○ 数学通し ○ DVO 国予習	○ 礼・道 ○ 国・道 × DVO	DVO 英語礼・道 (国・道)	6. 4スリ (国・道)	英語全般 4スリ	4スリ 模試問題 英語演習
2				物理 英語 選択 化学	1 数学 2 英語 3 理科	睡眠	部活
3	HR テスト テスト テスト	物理 英語 家庭 数学	国語 数学 生物 体育	数学 模範	数学 模範	睡眠	部活
4	LHR	国語 LHR	英語		数学	部活	帰宅
5						部活	数学
6						部活	睡眠
7						睡眠	TV
8						帰宅	部活
9						部活	部活
10	部活	部活	帰宅 模範	部活	部活	帰宅 数4スリ	部活
11	帰宅 部活	帰宅 部活	部活	帰宅 DVO	帰宅 部活	帰宅 数4スリ	部活
12	睡眠	睡眠	TV	睡眠	睡眠	TV	部活
13	部活	部活	睡眠	部活	部活	睡眠	部活
14	DVO, 部活	部活		部活	部活	部活	部活
15	英 30 国 30	英 60	英 15 国 75	英 20	0	70	150

PDCAが自然と回せるフォーマット

先生の指導例	生徒の記入例	
<p>Plan</p> <p>月曜日の朝礼で「今週のやること」を書かれています。(紙面 部分) 週の始めに目標を書くことでモチベーションを上げている生徒もいます。</p>	<p>英語を毎日5ページやる P.1~5 P.6~10 地理ワーク ○ × 素振り450回</p>	
<p>Do</p> <p>時刻割や学習計画を書かれています。計画を立てたい生徒は朝に、振り返りを書きたい生徒は夜に書く時間は生徒に任せています。</p>	<p>HR コミュニケーション 化学 世界史 世 生物 A 数 数学 I 教 情報 コミュニケーション 体育</p>	
<p>Check</p> <p>放課後や家庭学習後に書かれています。活用することで生徒とのコミュニケーションが増えました。まずは顔マークから始めています。</p>	<p>英問 P.1~5 地理ワーク 素振り 素振り</p>	
<p>Action</p> <p>翌週の月曜日までに1週間の振り返りを書かれています。振り返りをしてスッキリした気持ちで週末を迎える生徒が増えました。</p>	<p>Action 土日のどちらかで図書館に行く</p> <p>Check 主物明日質問する 大会に向けた頑張る!</p>	